

2017年

ホームページへGo!→
スマホで教室便りが見られます



教室だより8月号

公文式本市場教室 火・木 3~7時 TEL61-4936(上平方)

横割教室 月・水 3~7時 TEL61-8891(福島方)

指導者:新妻ゆき子 携帯090-2260-0671

Eメール:yvonne-yukiko@mbi.nifty.com

携帯アドレス:yvonne-1682-yukiko@docomo.ne.jp

ゆきこくもん

検索

ホームページ <http://www.yukiko-kumon.com>

充実した夏休みを

夏休みが始まりましたね。今回の教室だよりでは、あまり手間をかけずに、お子さまが充実した夏休みを過ごしてくれるような働きかけをいくつかご紹介させていただきたいと思ひます。

- ① 達成可能な目標を決め、実行（継続）するためのスケジュールを自分で立てさせる
時間管理が難しい低学年以下のお子さまには、朝食後、昼食後というようにタイミングを決めます。そして、1日の終わりにどこまでできたか、お子さまと一っしょに確認し、できたことをほめてあげる。子どもはほめた方向に伸びてゆきます。自分が得意なことが見つかるかもしれませんね。
- ② お子さまができるお手伝いを任せてみる
大好きなお母さんから頼りにされるということは、子どもにとって非常に「快」の状態です。自分も家族の一員として、ちゃんと役割を果たしているという満足感、子どもを成長させます。
- ③ 子ども主体で、お出かけの計画を立てる
電車の時間や観光施設を調べたり、みんなの希望を調整したり、きつといい経験になると思ひます。せっかくの夏休みです。お子さまを普段と少し違うことにチャレンジさせてみられてははいかがでしょうか。

公文式の創始者・公文 公（くもん とおる）先生の言葉より

“公文式はお子さまの能力を伸ばすチャンスを逃してはならないと考えています”

能力の高い子どもたちの中には、学校で足踏みさせられている子どもが、少なからずいるものです。優秀な子どもたちにとって、それは苦痛となることさえあるでしょう。さらにそのことが原因で勉強そのものから興味を失ったり、学校嫌いになったなどということがあってはなりません。

そうならないためにも、公文式は優秀な小学生を、小学校の勉強だけにとどめてはならないと考えます。なるべく早く中学校以上の内容に進めてあげる。さらには、学校の内容はさっさと終わらせて自分の興味、関心のある事柄について、本を読み知識を増やし、理解を深めていくように導く。そうして、自ら学ぶということの本当の楽しさを味わわせてあげたいのです

2017年 8月の学習日

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11 山の日	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

本市場教室日□

横割教室日△



*ゆき子の一言コラム

～ほめ上手な父親になろう～

子どもを伸ばす父親はほめ上手が多い。ほめるのが下手で、子どもが伸びることは稀でしょう。

多くのお父さんたちは頭ではそのことをわかっていると思うが、いざとなると、うまくほめられない。

「いまさらほめるのも恥ずかしい」気持ちがあるのかもしれないが、ほめ方がわからない、何をほめていいかわからない、という人もいらっしゃるでしょう。そこで、お父さん方の苦手な「ほめ方のコツ」をお教えます。

大事なコツは、ポイントを絞ってほめること

1 ピンポイント法

重要なコツのひとつ。ほめるところを絞ってほめる方法です。

たとえば、子どもの漢字書き取りノートを見たとき、お父さん方の9割は、字が汚くてイライラすることでしょう。

それが普通です。しかし、中にはきれいな字もいくつかはあるはず。そこに丸を付けてほめてあげます。

汚い字には目をつぶって、比較的きれいな字だけをピンポイントでほめます。

これを毎日続けて丸が増えてくると、子どもは不思議なことに、だんだんていねいに書くようになります。

わざわざ「ていねいに書いて」と言わなくても、必ずそうなります。

丸を付けてほめた後、「書き直したいと思う字はある？」と聞いてみましょう。ほめた後に聞くことが重要です。

すると子どもは「この字を直したい」というから、書き直させて、またほめます。これを繰り返せば、必ずていねいに漢字を書くようになります。

次のコツは、短所をどうほめるか

2 短所言いかえ法

親というものは、子どもの短所ほど目につくものです。

だらだらしている、やるべきことをやらない、整理整頓をしないなど、「子どもの短所を挙げてください」と訊くと、スラスラといくつも言える親が多いですね。ところが、子どもの長所を挙げてくださいというと、なかなか出てこないです。しかし、大人も同じですが、短所は長所の裏返しである。ここが重要です。

何でも後回しにして遊んでしまう子は、「度胸がよい」「神経が太い」とも言えます。これは、大人になってから大事な資質です。いつも気を抜けない神経質な人では、大きな仕事を任されたときにその重圧に参ってしまう恐れがあります。その点、神経が太い子は、トラブルが起きても乗り越える力があるかもしれません。

逆に「家に帰ったら宿題をしないと気がすまない」性格は、もしかしたら長所ではないかもしれませんが。

親としてはすばらしい長所に思えても、将来を考えると、逆に不利かもしれません。

つまり、要は親の見方です。そういう目で見れば、宿題をしてなくても平気で遊べる子が、頼もしく見えてくるでしょう。親が子どもを見るときに「直すべき短所」と否定してしまうのではなく、「ちょっと別の角度から見る」ことは大切です。短所は長所の裏返しであり、無理に矯正してしまうことで、子どもの長所を奪っているかもしれないのですから。

他の子と比較せず、我が子を虚心坦懐に見つめよう

3 成長評価法

我が子を他の子と比べたくなるのは人情ですが、子どもの成長には個人差がとても大きいものです。

いろいろなことが早くできるようになる子も、遅い子もいますね。

人と比較して人より遅いところ、劣っているところを矯正しようとするべきではありません。

他の子と比べるのではなく、その子自身が以前に比べて成長した点、良くなったことを見つけて、ほめましょう。

たとえそれがほんの少しでも、とにかく前進しているのだから、それはすごいことです。

多くの親は「何年生までには、こんなことができているといけない」というイメージを抱きがちですがそんな考えは必要ありません。固定的なイメージを持っていると、左右の靴を間違わずに履けるようになったとか、

繰り下がりの計算ができるようになった、掛け算九九ができるようになった、などといった「その子にとってはすごい進歩」が、「やっとできたか」「できて当たり前」などと、逆に叱る材料になってしまいます。

その子がかんばってできるようになったことは、素直に親としてほめてあげましょう。他の子と比べずに、自分の子をしっかりと見つめましょう。

お休みのときは電話でもメールでも結構ですので連絡をお願いします。

7月分の会費引き落としは7月28日(金)です。よろしくお願いいたします。

(注)休会・退会の場合は、引き落としの関係から15日までにお申し出下さい。